



12月6日昨年最後の墓地清掃に併せ浄焚会（じょうぼんえ）を勤めました。白木の位牌、古いお仏壇の道具・位牌などを供養した後、お焚き上げしました。



第 136 号
(令和3.1.1)

信 楽 寺

〒690-0052

松江市堅町88

TEL(0852)21-1589

FAX(0852)21-1590

郵便振替口座番号

01450-3-13538



聖徳太子1400年大祭

いよいよ今夏50年に一度の聖徳太子像のご開帳をいたしますのでお参り下さい。

法然上人
浄土宗
開宗850年
お念仏からはじまる幸せ
2024

謹賀新年

令和三年元旦

信楽寺住職 楽 誉 広 平

副住職 強 誉 量 介

総代 一 同



今年の

しゅしようにえ

修正会(初参り)

新年賀会

は中止とします。

例年、本堂にて新年を祝う新年賀会を中止とします。

修正会は寺族(住職家族)のみで勤めさせて頂きますのでご了承下さい。

正月三が日は本堂正面を開けておりますので、各自ご自由にお参り下さい。

目次

今こそ重要至急のお念仏を

住職 楽誉 広平 2頁

父の一周忌に思う

中島 淳治 4頁

1、2の3ごめんなさい

渡部 潤一 5頁

亡母福間和喜子をめぐるファミリーストーリー

兼築 信行 6頁

追善寄付・寄贈図書・令和三年年回表

7頁

令和3年行事予定・定例行事ご案内

8頁

今こそ重要至急のお念仏を

佳職

楽誉ぎょうよ

広平

皆様明けましておめでとうございます。

新年が明るく希望に満ちた年となりますよう、一日も早いコロナ感染症の収束を願ひ、元の生活に戻る日を信じたいと思います。

昨年のお寺の行事は、お盆の棚経のお勤めをはじめ、各行事を中止、縮小と致しました。

信楽寺の長い歴史の中で初めての棚経中止の選択は、苦渋の決断ではありましたが、中止して改めて棚経の重要さを再確認出来たと思います。

わずか一回の棚経の中止で皆さん方の様子を窺い知る事が出来なくなるとは思いもありませんでした。

この一年のブランクはお寺にとつて大きな痛手ではありますが、反対に普段からの皆さん方との繋がりがいかに大切であるかを気づく機会になりました。今夏がどのような状況になっているか分かりませんが、是非、総てのお宅を

何があつてもお参りする予定でおります。

普段のお勤めに関しましては、本堂にお参りの人数制限・お斎(会食)やお説教の中止、またお勤めの時間を極力短くするなど工夫して参りました。

手の消毒、検温はもちろんの事、トイレの使用にも、使う本人、また次に使う人の為にも清潔に使用する事に徹底して指導をさせて頂きました。常に本堂内の換気扇を回して、サーキュレーターを設置、寒い時期にもサッシを部分的に開けております。

一般のご葬儀では、流れ焼香が当たり前となりましたが、お寺の行事でも焼香だけのお参りも多くなりました。

先代が常に言っていた言葉に「お斎に残つてもらうのも供養ですよ。法要だけでなく、同じ物を



同じ場所で召し上がつて戴く、これは大切な先祖様への供養なのです」と、残念ながらそれが出来なくなり、また他寺のお坊さんの話を聞いて頂けないことは各法要の魅力の半減ではあります。しばらく我慢の時であります。必ずや元の状態に少しずつ戻していただけるはずと信じております。

普段の法事は、今まで通り行つておりますので、本堂でのご法事をご予定下さい。

ただし、本堂内には15人が最大とお考え下さい。法事にお参りされる人数がある程度絞つて頂きたいと思ひます。普段から木魚を用意し、お参りの皆さんとお念仏をお称え致しますが、人数によっては省略せざるを得ない場合もございます。

お寺からクラスターを出さない為にも、極力人数を控え、飲食は出来ないものと心得て下さい。場所を外に移してのお斎にもなるべく控えさせて頂きたいと思ひます。勝手なお願いではありますが、今後ともご理解・ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

平素のお墓・お寺のお参りが少なく寂しい思いをしております。「不要不急」に心がけての事とは思ひます。今までお参りに来ておられた方のお顔が見られなくなり、お元気でおられるだろうか？今度はいつお目にかかれるのであろうか？とても寂しく思つております。

普段のお寺のお参りまで、不要不急の用事にしてしまつていいのでしょうか？不要不急ばかり求められる時代ではあります。今こそ「重要至急」であるお寺へのお参りを、そしてお念仏をお称えする必要があると思ひます。平素からの皆さんのお参りをお待ちしております。



八月四日 盆施餓鬼法要



十一月三日 十夜法要



総ての法要に三密を避けお勤めを致しました

聖徳太子 一四〇〇年大祭について

いよいよ今年には聖徳太子様一四〇〇回忌の年に当たります。全国各地の聖徳太子ゆかりのお寺様でも各行事が催されます。「つきかげ」にて何回も紹介してきましたように、当山聖徳太子像は、松江藩々祖松平直政公が霊夢を感じて、松江城下の作業場を守護する為に、隠岐の島にあった太子像を呼び寄せたと伝えられています。

当山ご詠歌には

世間虚仮

仏は真理と説き給う

和国の教主 徳いや高し

と聖徳太子様辞世の句である「世間虚仮 唯仏是真」を詠んでいます。当山にとって昔からご本尊様と並んで信仰された大切な秘仏であります。

今回一四〇〇回忌（一四〇〇年大祭）に当たり7月22日から25日まで毎年堅町地域のお祭りとして、親しまれている聖徳太子祭りが、特に50年に一度の大祭として、賑やかにそして厳かに奉修され、二度と見ることは出来ないだろう太子像を、直接その目で拜んで頂きたいと思えます。今回撮影の為に事前に拜ませ

て頂いた太子像は、平素光も息も掛かることの無い秘仏の為、それは鮮やかな姿を留めておいでにられます。

特に衣の装飾は細かく鮮やかな彩色が施されており、

当山太子像は16歳の姿であり、お父様である用明天皇がご病氣になられた、その病氣平癒を祈願した姿（孝養像）であります。このコロナ禍の混迷の世の中に一番頼りたさせてもらいたいお姿ではないかと思えます。今年、来年の2カ年に渡り特別に公開の機会を得ることが出来る太子像を是非お参り下さい。そしてお祭りをを行うにあたり、皆様にはご支援・ご協力を賜りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



父の一周忌に思う

中島 淳治



令和元年10月4日、夜中からの風雨も日の出とともに上がり、松江市立病院の緩和ケア病棟の窓からは、穏やかな朝を迎えた松江の空に大きく綺麗な虹が見えました。

「父さん、きれいな虹が見えるよ、いい一日だよ」そんな私たち家族の呼びかけが、耳に届いているのかいないのか、癌による激しい痛みと呼吸困難を抑える強い薬によって眠っている父からは、窺い知る事が出来ません。

この日の5日前、仕事の直

前に鳴った携帯で、取り乱した母に続き担当の先生より父の容態の悪化と、すぐに病院に来てほしいと告げられました。その日の仕事をキャンセルし、慌てて羽田から出雲空港に向かいました。

到着後手荷物を受け取る時間も待ちきれない様子で、ゲートの一番手前で手を振る母と、その後ろで待つ父の姿。やっと父母の元にたどり着くと、「ご苦労さん」と握手で出迎えてくれるのが、ここ数年私にとっては帰郷時の当たり前の景色でした。



父の運転する車内で互いの近況を話し、その足で信楽寺様に向かい、幼くして亡くなった妹の墓参を済ませ、家に帰ると仏前で帰宅の報

告と日々の感謝を祈ります。

これまで当たり前前だったそんな日常は失われ、この日以来出雲に降り立つ私を迎えるのは、迷子の子どものような心細さと寂しさばかりになりました。

横浜から駆け付けた私に「仕事があるのにわざわざ来んでも大丈夫じゃけえ」と父は苦しい息の中でも気遣いの言葉をかけてくれます。

癌と闘いながらも、子どもたちに余計な心配はかけまいと、私たちには詳しい病状も教えず、常に傍で支える母にも泣き言一つ言ったことがないそうです。

やがて熊本に暮らす弟も加わり、既に医師からいつ何が起きてもと覚悟を求められていた私たちは、何日も病室で看病を続ける母と共に、苦しむ父の容態に極度の緊張を強いられながらも、家族として父との最後のそして濃密で大切な時間を過ごすことが出来ました。

秋晴れの10月4日午後。家族そして遠方から集まってくれた父の3人の兄や親族に囲まれて、父は穏やかに仏様のもとへ旅立ちました。

コロナ禍の昨今、失われたものが決して当たり前ではなかったと、その大きさを痛感するとともに、今ある事への感謝の思いを新たに致した一周忌となりました。



一昨年前満中陰を終えての写真

1、2の3「めんなさい

渡部 潤一

この6月に朝日新聞から取材を受けました。きっかけは、「大げんか どうやってなかなおり」というタイトルで投稿の募集があり、応募したところ、インタビューされることになったのです。応募総数四百数十の中から選ばれたそうです。



約束当日、朝日新聞の記者さんが自宅にお見えになりました。若い女性でした。3時間余り上手に話を聞きだしてくださり、自分達を振り返ることもできました。7月5日付の新聞が出た時にはワクワクしながら読みました。

記事の内容の概略です。

「けんかをしたら1、2の3で同時に謝ろう」。渡部潤一さん純子さん夫妻は、結婚してから30年以上守り続けてきたこのルールに支えられている。ルールは潤一さんが提案した。小さいころ妹と兄弟げんかをしたときに、妹と約束したこのルールを思い出していることである。仲直りまでの流れはこうだ。けんかが起きると、2人の間に険悪な空気になり、沈黙が続く。

そこで、どちらかがタイミングを見計らって「1、2の3」と声をかける。かけられた方は、相手と同時に謝る。

潤一さんは、この3月までの2年間、インドに単身赴任していた。2人の娘も結婚して家を出たため、純子さんも1人暮らしに。パートで働き、夜10時頃

帰宅して夕食を食べる日々だった。純子さんは2年間を振り返り、「二人だとけんかをしなくても済むけど、その分楽しいこともない」。潤一さんは「彼女は新婚のころからずっと、出かけるときに玄関の外まで出てきて手を振ってくれる。帰国して改めてありがたさがわかり、感謝しています」

今春から始まった夫婦2人だ



けの生活。不思議とルールの出番は少なくなった。

記事にされ、職場や近所の方に声をかけられたり、旧友から手紙をもらったり。また、ラジオのアナウンサーがこの記事を取り上げて放送していたという話も知り合いかから聞きました。お互い改めて夫婦について考える良い機会にもなりました。

亡母福間和喜子をめぐる

ファミリーストーリー

兼築 信行



令和2年9月29日は、亡母の一周忌でした。長年松江で独り暮らしをしてきた母、福間和喜子は、平成28年11月、栄養失調症のため動けなくなり、浦和小宅に引き取りました。そして要介護2の認定を受け、介護の日々が始まりました。徐々に体調も回復、家周りを散歩できるまでになりましたが、令和元年9月13日に緊急入院、同29日に死去しました。享年86歳でした。



私 は早稲田大学文学部教授で和歌を専門としています。一介の古典研究者に過ぎませんが、母を介護し、看取り、納骨するまでのちょうど3年間、フェイブック上に折々の感慨などを歌に詠み、綴ってきました。それらをまとめ、上梓する話が進み、歌集『改元前後2016-2019』（花鳥社）として、命日に出版することができました。助手を勤めていた時に学生だった依万智さんから、推奨の言葉もいただきました。

亡母は昭和8年8月、兼築明治・スエの末子として生まれましたが、7ヶ月にして、福間春信が後妻久子を迎えるに際し、養女となりました。福間家の菩提寺は信楽寺であり、春信は檀家総代も務めた人です。和喜子は養父母亡き後も、お寺へのご奉仕を熱心に続け、私も連れられて常にお参りしました。先代信広ご住職様には、大層可愛がっていただきました。亡母は信楽寺ご関係の方々に、たいへんお世話になりました。この場をお借りして、あつく御礼を申し上げます。



春信には先妻との間に長女がいました。ではなぜ、和喜子は養女に迎えられたのか？ 実は久子の母は美治の姉であり、久子と和喜子とは従姉妹同士となります。ところが久子は、春信と結婚する時点で、兼築分家を立てた母親と弟の位牌と墓を抱えていました。この分家の菩提を祀る家筋を立てるべく、生後間もない和喜子は養女に貫われたと解釈できます。和喜子は後に、売豆紀神社横屋の次男谷本清造を婿養子に迎え福間分家を立てますが、福間分家では、萬壽寺を菩提寺とする兼築分家の仏壇を祀っていました。そして私は高校2年の10月、スエが死去する当日、スエと養子縁組して兼築姓となることを強いられました。つまり福間分家とは、兼築分家のダミーだったこととなります。本来信楽寺に葬られるべき父母は、生前戒名を受け萬壽寺の永代供養塔に入りました。私の一人娘は妻氏婚をして兼築姓を継ぎ、男児を儲けました。曾孫の顔を見て逝った和喜子の人生は、まさにミッシェン・コンプリートの一生であったと思います。 合掌。

信楽寺

おほぢおほばのはかどころ
その山門ぞいやなつかしき

追善寄付

為 母追善 金一封
 為 父追善 金一封
 為 父追善 金一封
 為 父追善 金一封
 為 長男追善 金一封
 為 母追善 金一封
 為 父25回忌追善 金一封
 為 夫追善 金一封
 為 母追善 金一封
 為 父追善 金一封

施主 平田 裕子
 施主 田月 正人
 施主 久保田倍生
 施主 宮本 弘和
 施主 中川 英広
 施主 北條 主
 施主 伊藤 益男
 施主 吉田 千夏
 施主 吉元一二三
 施主 田中 幸二

為 夫追善 金一封
 為 母追善 金一封
 為 母納骨追善 金一封
 為 母追善 金一封
 為 父追善 金一封
 為 先祖代々追善 大壺
 為 夫追善 地蔵尊前掛け・帽子
 為 夫満中陰忌追善 金一封

施主 大谷 宏子
 施主 奥村 淳司
 施主 森 達磨
 施主 三代 英隆
 施主 伊中 敏彦
 施主 山田 正彦
 施主 森口 康子
 施主 大谷 宏子

寄贈図書

ご本人寄贈

改元前後2016-2019

施主 兼築 信行著

ご本人寄贈

親子で学ぶ松江城シリーズ第5弾
国宝松江城のお殿②

施主 宍道 正年著

ご本人寄贈

島根の招魂祭
戦没兵士はどのように祀られたか

施主 有馬 誉夫著

為 先祖代々追善

鳩摩羅什 法華経の来た道

施主 有馬 道夫

為 父50回忌母13回忌
祖母25回忌追善

図版 狩野永徳

施主 倉内隆・重男

松江歴史館寄贈

松江藩主 松平齊貴

島根県立古代出雲歴史博物館寄贈 大地に生きる しまねの災と幸

山田正彦氏ご本人作成による大壺を寄贈頂きました。過去にもご寄贈して頂き二つ目となります。和歌山ねんりんピックに出品された作品です。題名は面取瑠璃釉窯変壺です。



森口康子氏より六地藏尊へ、手作りの前掛け・毛糸の帽子の奉納がありました。
寒い日を前に暖かさうなお地藏様に心が和みます。

令和三年 年回表

- 一周忌 令和二年(二〇二〇)亡
- 三回忌 令和元年(二〇一九)亡
- 七回忌 平成三十七年(二〇一五)亡
- 十三回忌 平成二十一年(二〇〇九)亡
- 十七回忌 平成十七年(二〇〇五)亡
- 二十五回忌 平成九年(一九九七)亡
- 三十三回忌 平成元年(一九八九)亡
- 五十回忌 昭和四十七年(一九七二)亡
- 百回忌 大正十一年(一九二二)亡
- 百五十回忌 明治五年(一八七二)亡
- 二百回忌 文政五年(一八二二)亡
- 二百五十回忌 安永元年(一七七二)亡
- 三百回忌 明和九年(一七七二)亡
- 三百五十回忌 享保七年(一七二二)亡
- 寛文十二年(一六七二)亡

令和3年行事予定

中止

| 行事 | 期日 | 時間 | 場所 | 備考 |
|-------------------------|---------------------|-----------------------|-------------------------------|---|
| 新年会 | | | | |
| ね はん え 涅 槃 会 | 2月中 | | 当山本堂 | 2月15日はお釈迦様がご入滅なさいました涅槃の日です。2月一杯本堂に涅槃図をおまつりします。 |
| 令和3年初めての 早朝墓地清掃 | 3月14日(日) | 午前7時おつとめ 午前7時半から清掃 | 当山本堂 | まだ寒い時季とは思いますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。 |
| 春彼岸法要 | 3月20日(土) 春分の日 | 午後1時半より | 当山本堂 | お念仏を一緒にお称えします。いつも法要の手伝いをして頂く、西尾町常念寺浅田舜雄上人に今年こそは法話をして頂く予定にしております。 |
| 聖徳太子 1400年大祭 | 7月22日(木) ～25日(日) | | 聖徳太子堂 | 3頁に紹介しています、聖徳太子像50年に1度の秘仏ご開帳の年です。またとないご縁に是非お参り下さい。 |
| 聖徳太子1400年 大祭おつとめ | 7月24日(土) | 午後6時半 | 聖徳太子堂 | |
| 棚 経 | 8月1日(日) ～15日(日) | | | 是非今年は皆様のお宅にお参りしたいと思います。次号にてお参りの順番をご案内申し上げます。 |
| 墓地一斉清掃 | 8月1日(日) | 午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃 | 信楽寺墓地 松尾町墓地 | 次号つきかげにてご案内申し上げます。ご確認下さい。 |
| 盆施餓鬼法要 | 8月4日(水) | 午前10時 | 当山本堂 | 次号つきかげにてご案内致します。 |
| 地藏盆おつとめ | 8月23日(月) ・24日(火) | | 松尾町地藏尊 豎町灘側地藏尊 | |
| おてつき 信行奉仕団 (本山参拜) | 未定 | 詳細は改めて案内 しています。 | 総本山 知恩院 | |
| 秋彼岸供養・ 永代供養法要 | 9月23日(木) 秋分の日 | 午後1時半 | 当山本堂 | おつとめの後、住職の法話とクラリネットのアンサンブル演奏を予定しています。演奏は出雲市円光寺曾田光雄上人にご尽力賜わります。 |
| 出雲教区詠唱大会 | 未定 | | | |
| 出雲教区 檀信徒大会 | 10月22日(金) | 午後より | 出雲市 大社町 [大社文化プレ イスうらら館] | 総本山知恩院おてつき運動の併修行事として、講演とクラリネットのアンサンブル演奏、メインゲストとしてPaix(ペベ)のお2人に歌とお話をしてもらいます。 |
| 十夜法要 | 11月3日(水) 文化の日 | 午前10時より | 当山本堂 | 塔婆の申込みは、後日直接ご案内致します。 |
| 今年最後の 墓地清掃・浄焚会 | 12月5日(日) | 午前7時 | 本堂正面 | 浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。 |

どの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

* 御詠歌の練習 *

毎月第2・第4土曜日
午後1時半より
随時新会員募集中

* 墓地清掃 *

毎月第1日曜日早朝
(1・2月はお休みします。今年初めての
掃除は3月14日(日)です)

* つきかげ会 *

毎月第2日曜日
午後1時半より

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。
また、月によって日時・時間が多少変更する事がありますので、
本堂前掲示板にてご確認下さい。